



流量の多い河川景観



流量の少ない河川景観



既存景観の良好事例  
河川対岸の鮮明なホワイト系の建物が、開放的な河川景観を強調して、明るい雰囲気となっている。

## ⑤ 河岸

### 色彩的特徴

流量の多い河川では、「空」と「空の色を映した水面」が対岸の山並みをはさみ込んでいます。晴れた日は明るいブルーの中に濃い山並みが入り、曲線的な稜線が浮かび上がります。中景の山はくっきりと明快であり、遠景の山は青みを帯びて空に融和していきます。

流量の少ない大河川では、河川敷の草や石が環境色の多くを占め、夏は明るいイエローグリーン、冬はベージュ系となります。

雪の積もった景観では全体が白くなり、晴れると雪の白に空や水面のブルーが映えます。

秋の紅葉を迎えた山に出現するイエロー系やオレンジ系の色彩も、晴れた日には、空や水面のブルーと対比的で、お互いに強調して見えます。

### 色彩選定のポイント

視点場としては、土手、河川敷、橋、河川沿いの道路などがあります。景観構成要素となる人工構造物には、護岸や堰などの土木構造物、河川敷のレクリエーション施設など、また橋梁や堤防の外側（提外地）に位置する施設などです。

河川の堤防内側（提内地）の施設は、もともとその地域の岩や土などの自然が持っている色彩でまとめることが望ましいでしょう。

一方、堤外地の施設は、河川の堤防と背景の山並みに挟まれて断続的に現われ、河川景観の印象を大きく左右する要因といえます。堤外地に位置する施設は、その周辺のまちなみを作り上げている景観構成要素ですが、このように、対岸から見れば河川景観の要素ともなります。特に、水辺景観の美しい島根県にとっては、河岸に建つ施設の場合、河川景観として配慮する計画を行うことが重要です。

かつて、島根県では大河川の交通によって特産品や文化が運ばれていました。確かに、現在は道路網の発達によって、上流から下流まで河川景観のすべてを連続して見ることはまずありませんが、河川は中国山地の脊梁部から日本海までいろいろな種類の景観の中を縫いながら流れています。そして多くの地域や様々な景観を繋ぐパイプとして、島根県の景観の中で重要な役割を果たしているのです。

各ポイントで眺望できる河川は、良好な景観がたいへん多いのも島根の特徴です。これらの河川景観が連続しているこ

との意識できる共通の景観要素があれば、水の国島根ならではの景観となるでしょう。

堤外地の建造物が、山並みを背景に明るく浮かび上がる景観は、島根ではしばしば見かける良好な河川景観です。これをさらに徹底することによって、水の国島根にふさわしい水辺景観を創出します。

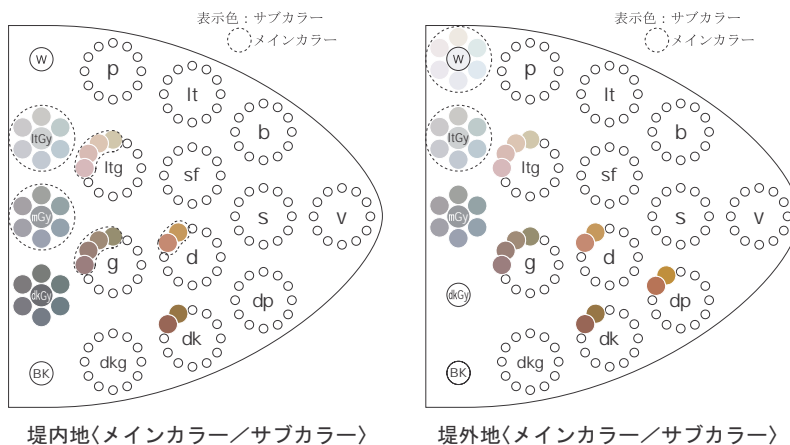
### メインカラー／サブカラー選定の考え方

#### 〈堤内地〉

できる限り自然素材を用いることが望ましく、人工素材でも、もともと河川の岩や土などの自然が持っている色彩を使うこととします。

#### 〈堤外地の施設〉

河川の連続性を表現する要素として、堤外地の施設の壁面全体または一部にホワイト系を用いることとします。



現状



対岸の建物の色彩を、良好な自然景観を阻害するような鮮やかなイエローからホワイト系に変えることで、全体計画に述べたような水辺の明るい雰囲気を出した例

### リブカラー

#### 〈堤内地〉

河川敷にある岩・土・砂・樹木の幹などに類似した色とします。

#### 〈橋梁〉

河川景観の重要な要素のひとつに橋梁があります。良好な河川景観は自然性の高い景観であったり、人工的な整備を行なった河川においても本来自然の河川が持っていた特徴を生かした景観が魅力につながっています。したがって橋梁の計画も河川景観の一部として、周辺景観に融和的な印象となるように計画するケースが多いと思われます。ただ、橋梁を強調し地域のシンボリックな存在にするケースもあります。この場合近景から見たときに威圧感（圧迫感）を受ける場合が多いので、その検討も重要となります。ここでは景観性と威圧感

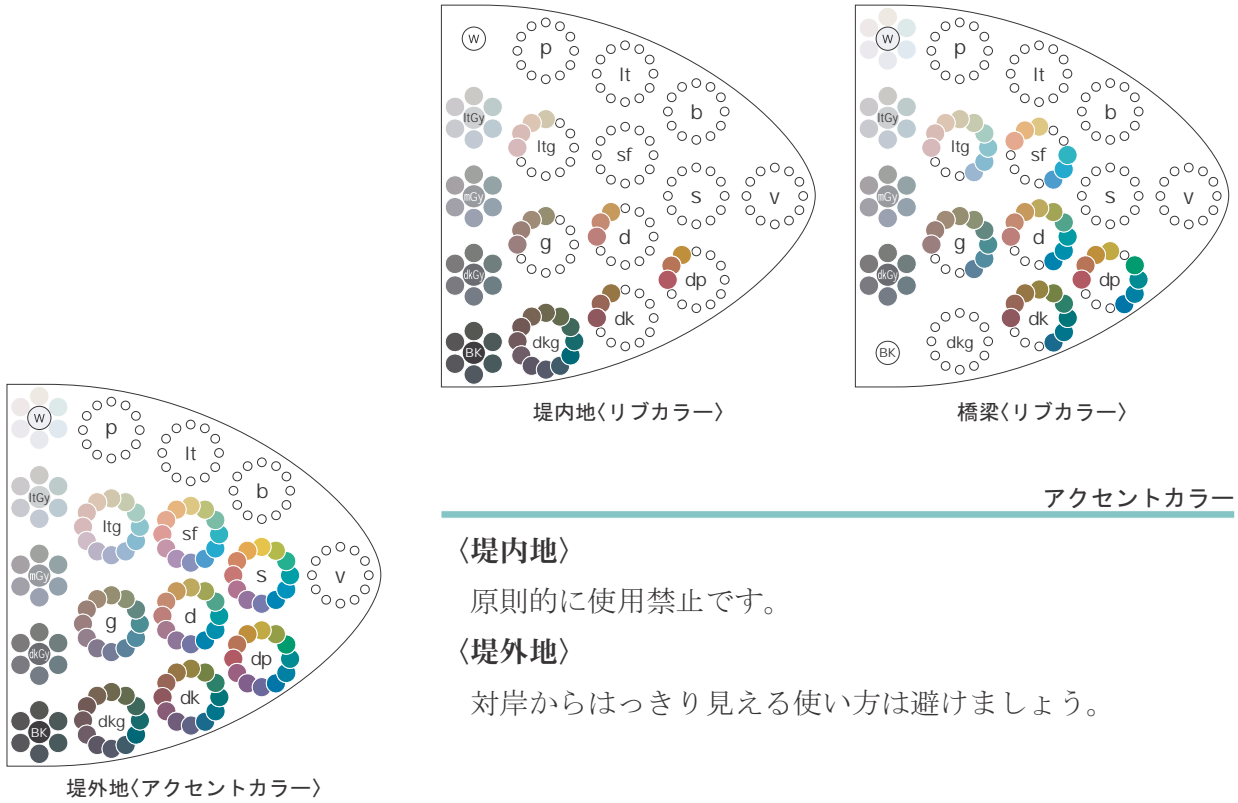


現状



河岸に近いところは壁面をホワイト系にして水辺の明るい雰囲気を、山に近接する建物は明度を落とすことで山に溶けこませるという考えに基づいた色彩変更事例

の両面から検討できるように中景と近景のシミュレーション画像を作成しています。用いた色彩は推奨色に入る色彩で、河川景観に対して橋梁が溶け込んでいくトーンから、やや主張して見えるトーンまでを選定しています。

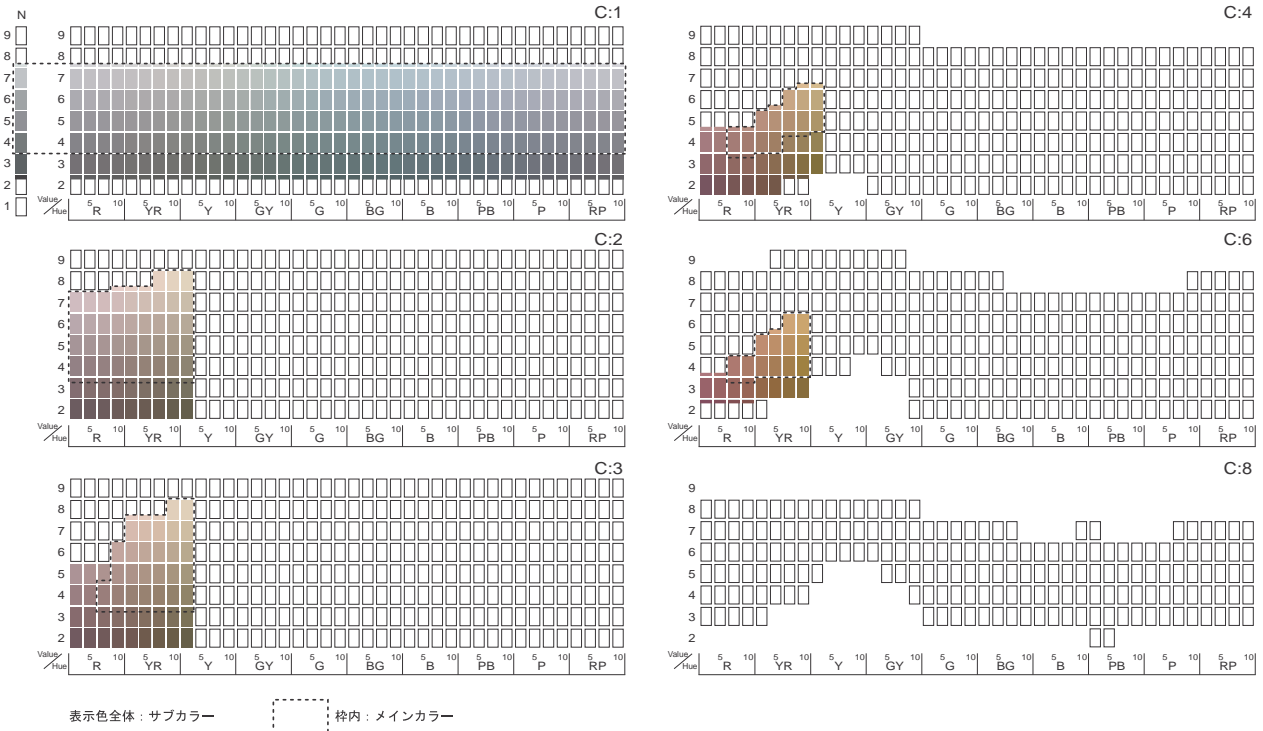


〈堤内地〉

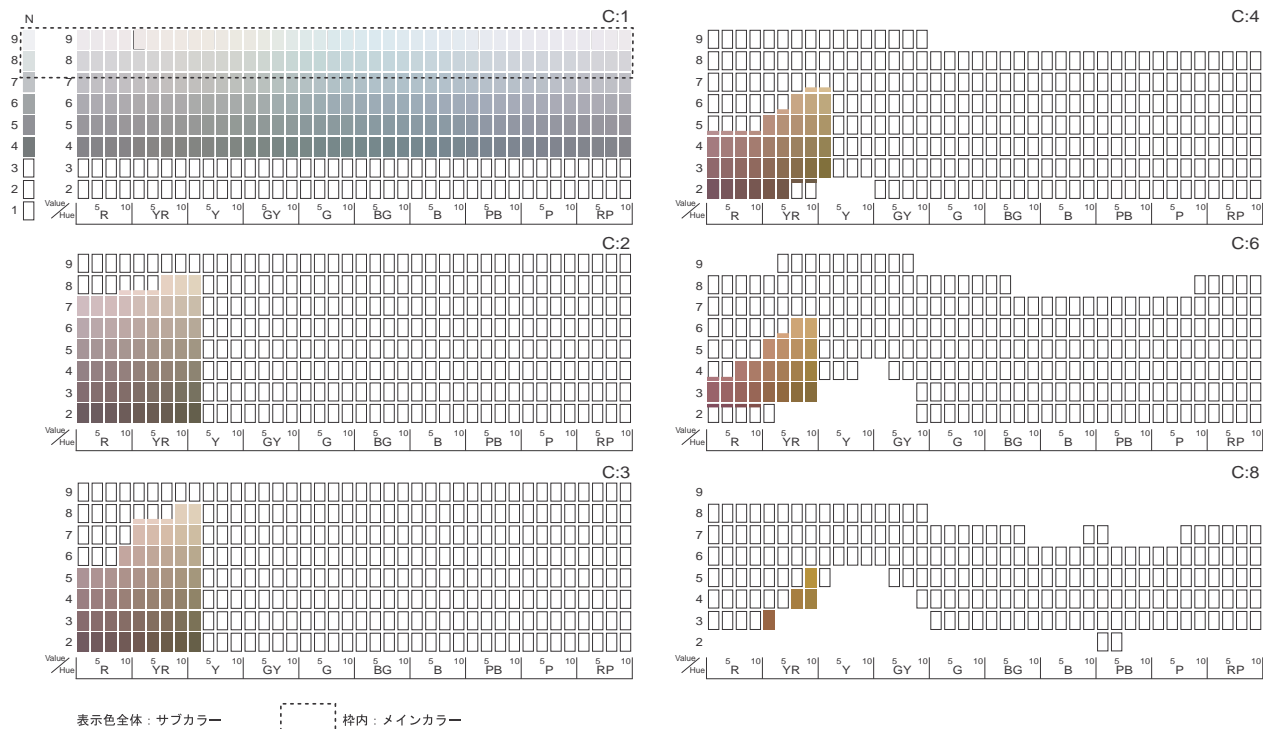
原則的に使用禁止です。

〈堤外地〉

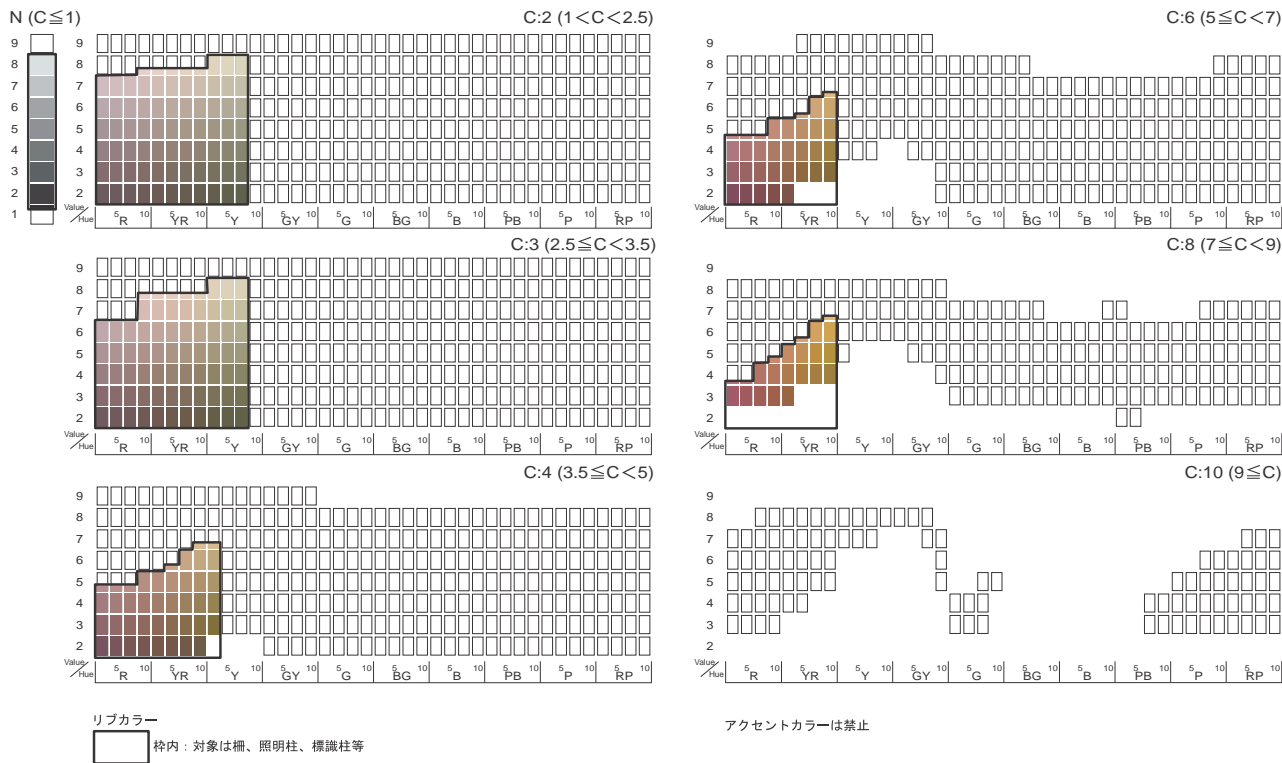
対岸からはっきり見える使い方は避けましょう。



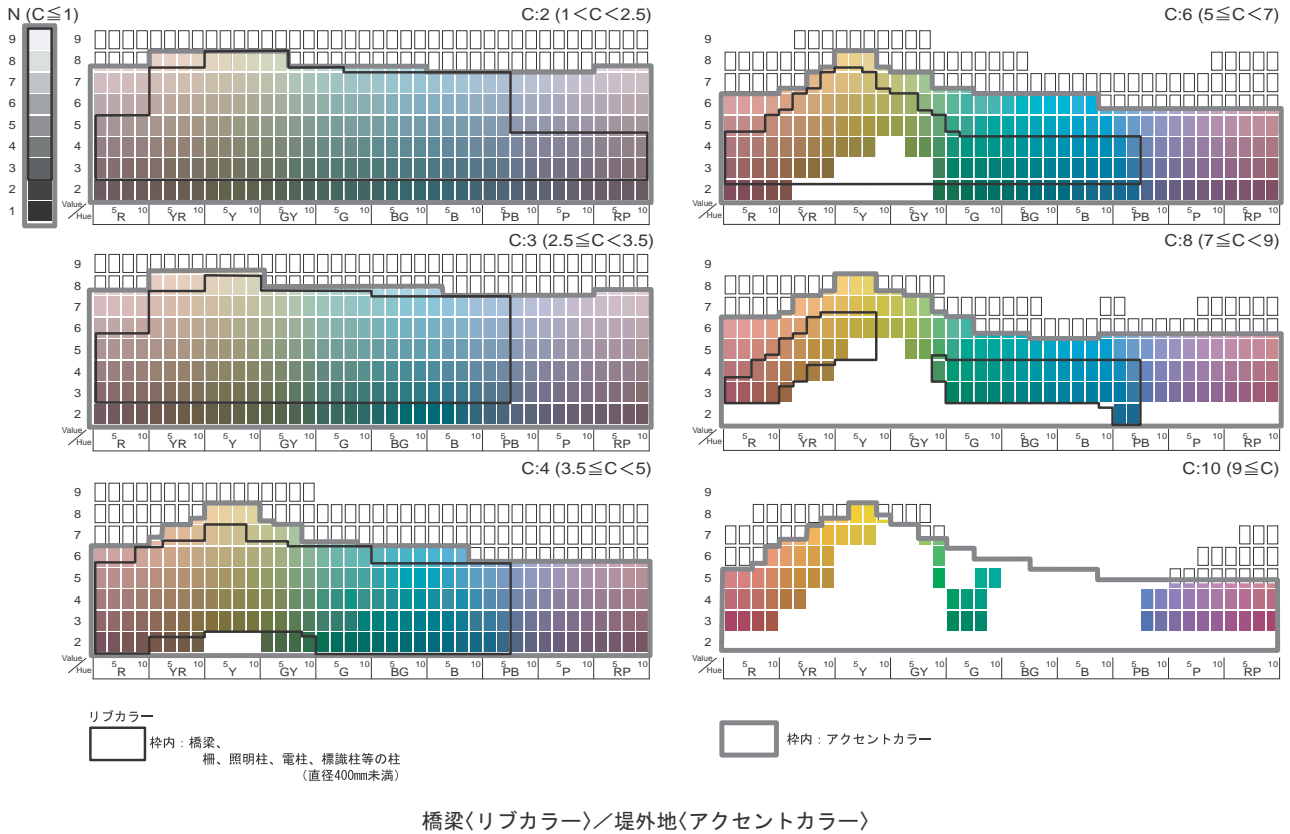
堤内地<メインカラー／サブカラー>



堤外地の施設<メインカラー／サブカラー>



堤内地<リップカラー>



## 河川景観における橋梁色のイメージマップ

推奨色範囲の中から系統的に検討色を選定し、カラーシミュレーション画像を作成したものが、次頁の一覧です。

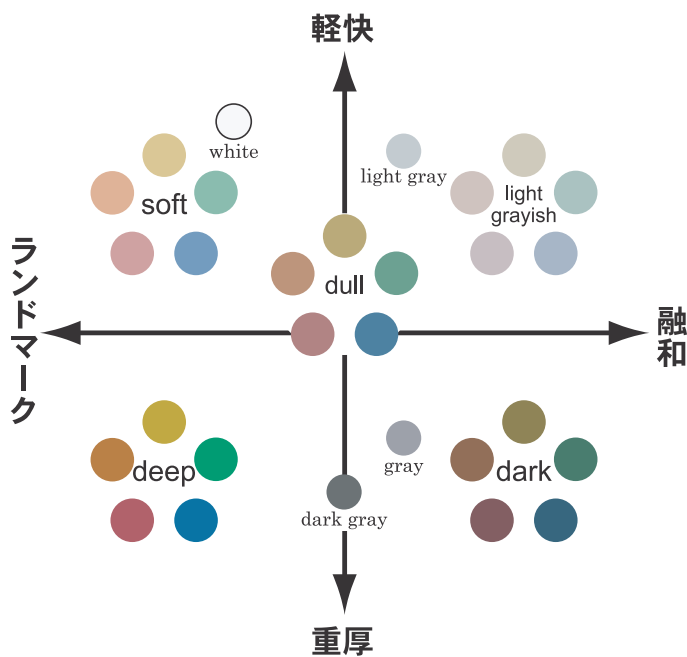
橋梁の色彩における事前評価は2つの側面から行なう必要があります。一つは背景との関係を検討する景観評価、もう一つは橋梁自体が与える印象の評価です。

それぞれの検討にふさわしいシミュレーション画像が必要です。

一般に、景観評価用には中景や遠景の画像、橋梁自体の評価用には近景の画像が使用されます。

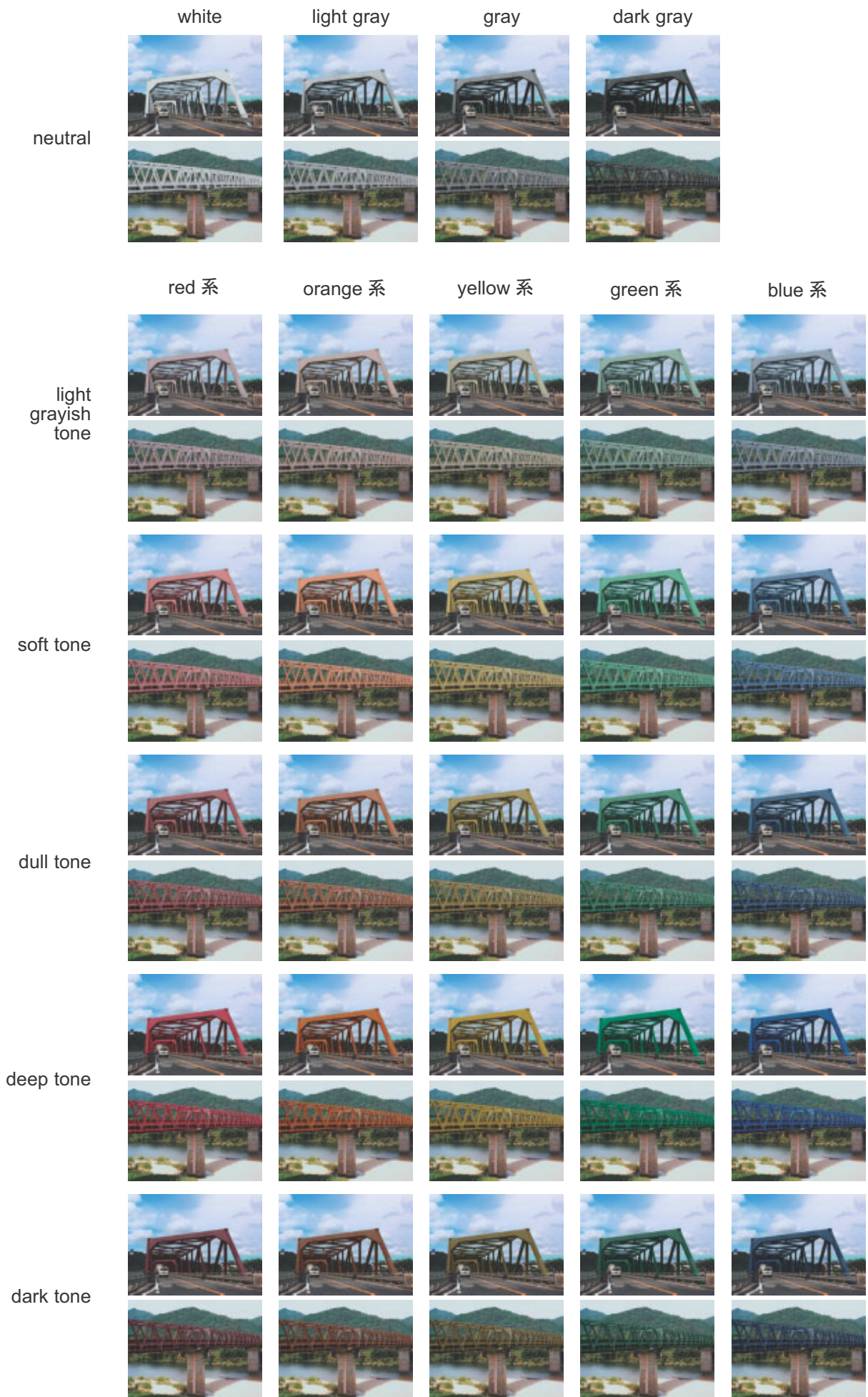
このカラーシミュレーションも近景と中景の2種類の原画から作成しています。

左の図は2つの評価軸を直交させたイメージマップです。横軸は、周辺景観に融和的であるか、またランドマーク的であるかという景観性の評価軸です。縦軸は軽快な印象か重厚な印象かという橋梁自体の印象評価の軸になります。



過去の類似設計事例のデータを参考に、カラーシミュレーション画像に用いた検討色をおおよその位置に布置したものが、左のイメージマップです。

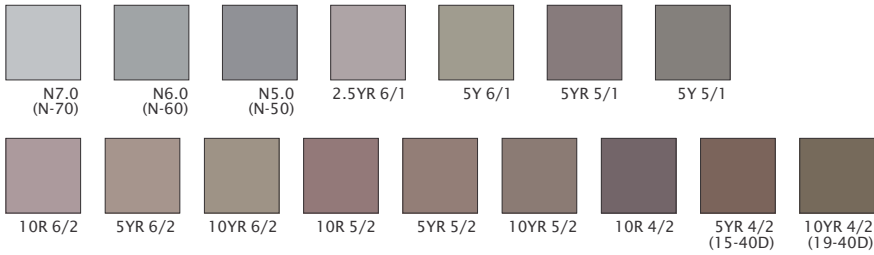
河川景観における橋梁の色彩を検討する際の資料としてご活用下さい。



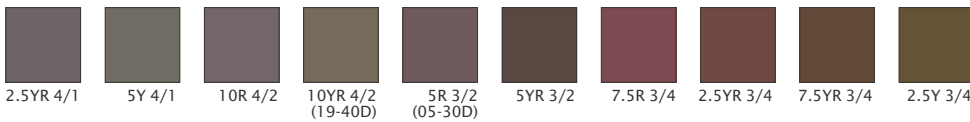
## カラーパレット 河岸

### 堤内地

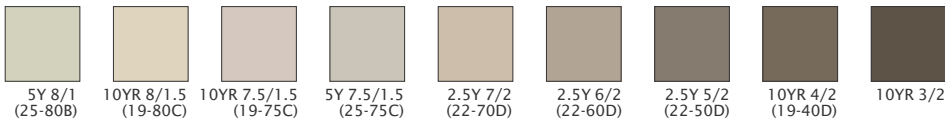
#### メインカラー



#### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

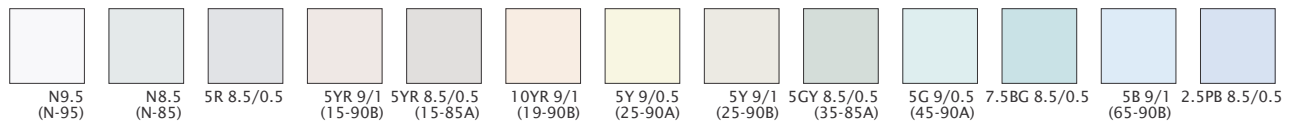


#### リブカラー (対象は柵・照明柱・標識柱など)

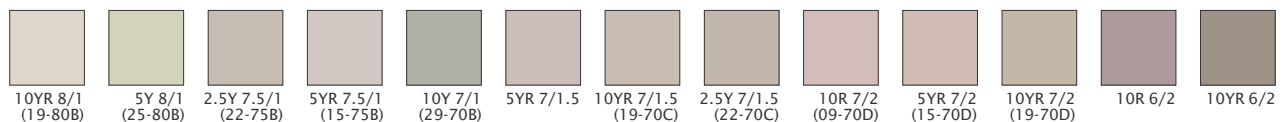


### 堤外地に建つ河川近接施設

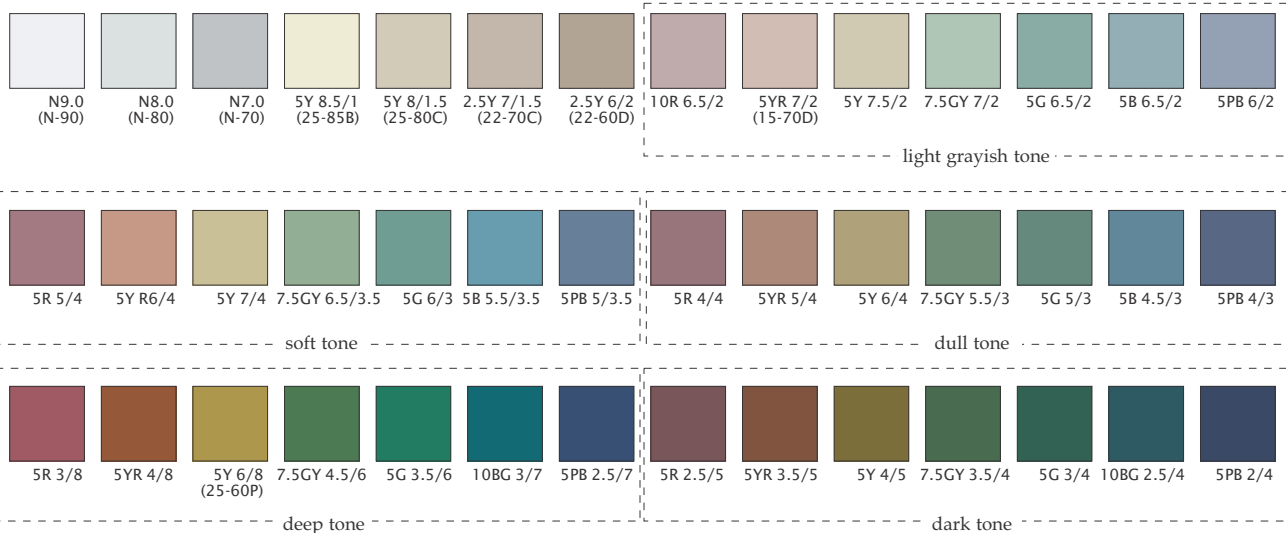
#### メインカラー



#### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



#### リブカラー (橋梁)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

## ⑥ 湖畔

## 色彩的特徴

宍道湖や中海では、景観色の大部分は「空の色」と「湖の色」で占められています。

空の色は、当然のことながら天候によって変動し、湖面の色も空の色を映すため、天候によって異なります。水の色は、太陽の照射条件が整ったときや曇り空のときには確認できません。宍道湖は日本海ほど透明感はなく、小規模の湖ほど緑みを帯びてはいません。広い湖面が最大限生かされた優良景観は、夕日や朝日を照り返す湖面の演出といえます。

蟠竜湖などの内陸の湖では、植生の色彩が景観上大きな比重を占め、湖面も緑みを帯びています。

## 色彩選定のポイント

宍道湖や中海では地形からくる開放的な印象にふさわしい色彩景観を形成しましょう。湖畔の視点場は、水際ゾーンや湖岸道路などで、近景は視点場周囲の景観、中・遠景は対岸の景観です。湖畔の特徴を最もよく表した景観は、前面に湖面が広がり、対岸にまちなみや山並みが続く景観です。このような景観で、建築物や施設の外觀が果たす役割は大きいので、特に配慮が必要です。

内陸の湖畔景観では、豊かな植生が魅力のひとつになっています。植生の色を生かす計画が望まれます。

## メインカラー／サブカラー選定の考え方

## 〈湖畔（海沿い）〉

湖岸に近接する建築物は明るくし、湖岸景観の開放的な雰囲気をもっと積極的に表します。湖面と明暗のコントラストをつけて、活気を感じられる景観形成を目指します。特に、湖岸に面した施設の場合、メインカラーの推奨範囲は明度8.0以上のホワイト系とします。湖岸から離れた位置に建ち、山並みを背景とする陸屋根の高層建築物は少し明度を落とし山並みに融和させると、低層部のホワイトがより一層生きてきます。

面積が大きすぎて単調になる恐れがある場合、それらの雰囲気を維持したまま、または強調するような方向で、表情を加える役割がサブカラーです。

## 〈内陸湖の湖畔〉

周辺の植生に調和した落ち着いた色彩が望まれます。



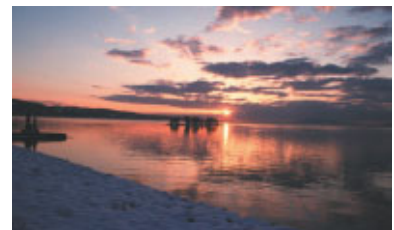
宍道湖



中海



内陸湖(蟠竜湖)



宍道湖 夕日の冬景色



湖畔の近景と遠景

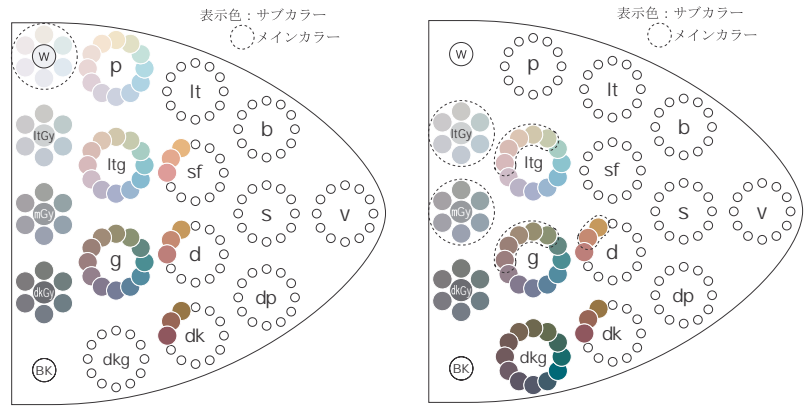


建築物の色彩に一貫性のないシミュレーション

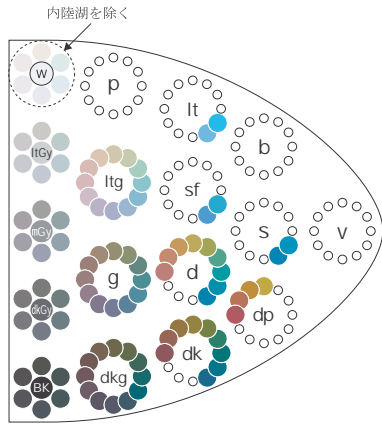


湖畔に近接する建築物を明るくしたシミュレーション





湖畔(海沿い)〈メインカラー／サブカラー〉 湖畔(内陸湖)〈メインカラー／サブカラー〉



湖畔(リブカラー)

### リブカラー

太い線材を用いる構造物に、ブラック系やダークグレイッシュトーンの色彩を用いると威圧感が出てくるので避けたほうが良いでしょう。

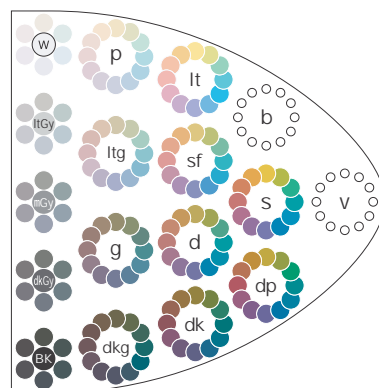
また内陸湖ではホワイト系は避けましょう。

### アクセントカラー

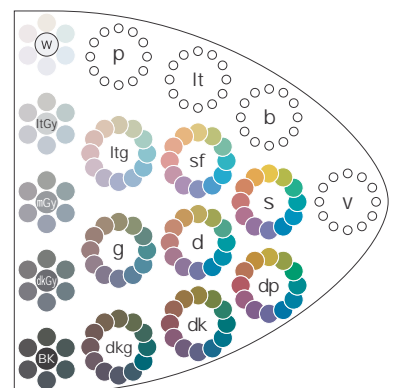
アクセントカラーは近景において活気のある表情を加えてくれます。ただ無秩序に使うと煩雑な印象となりますから、大きさ・形状・色数について周辺景観とのバランスを考えながらの節度ある使い方が必要です。

海沿いの湖畔では、蛍光色およびビビッドトーンは避けましょう。

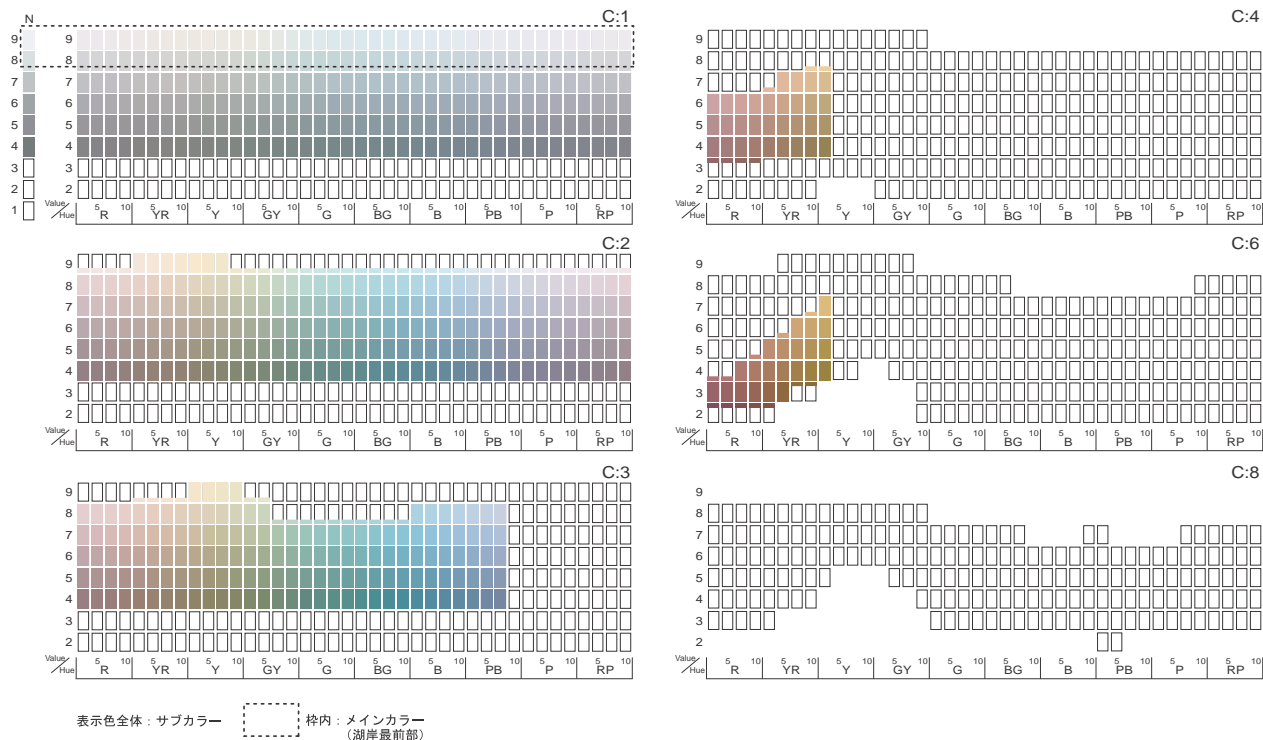
「内陸湖」では図の範囲内で用いることとします。



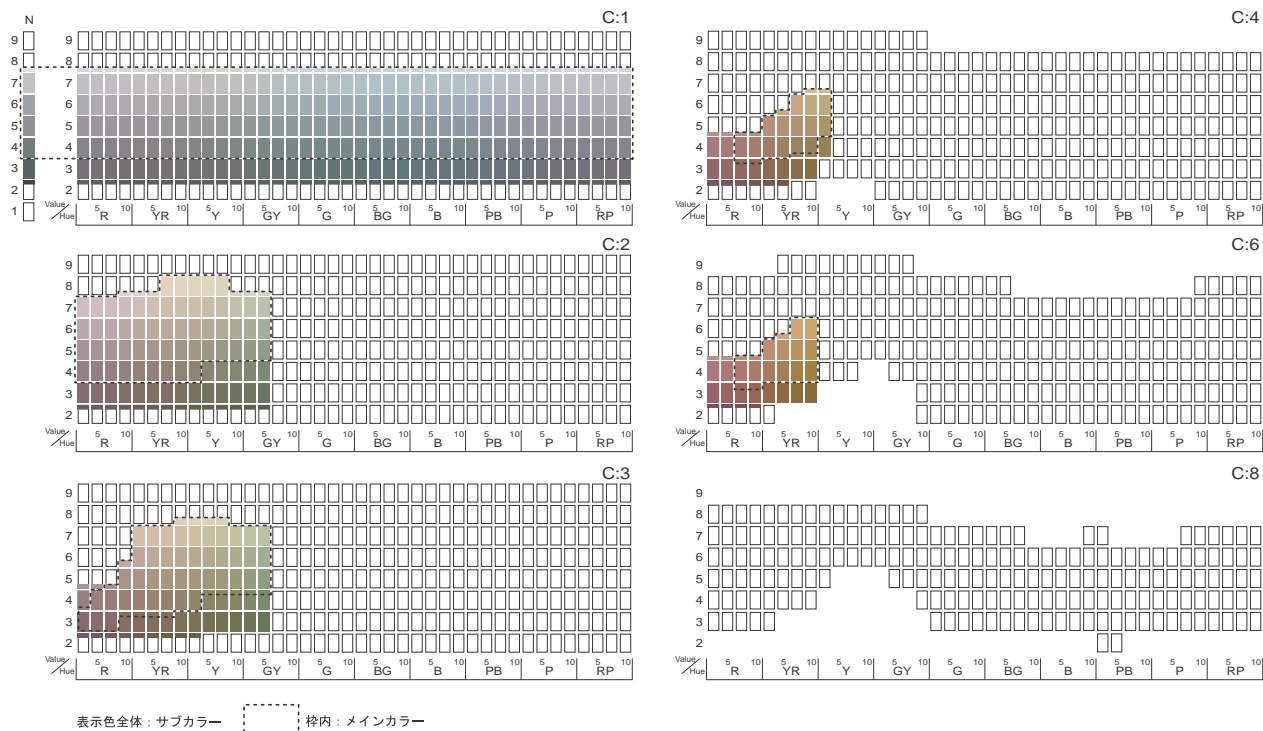
湖畔(海沿い)〈アクセントカラー〉



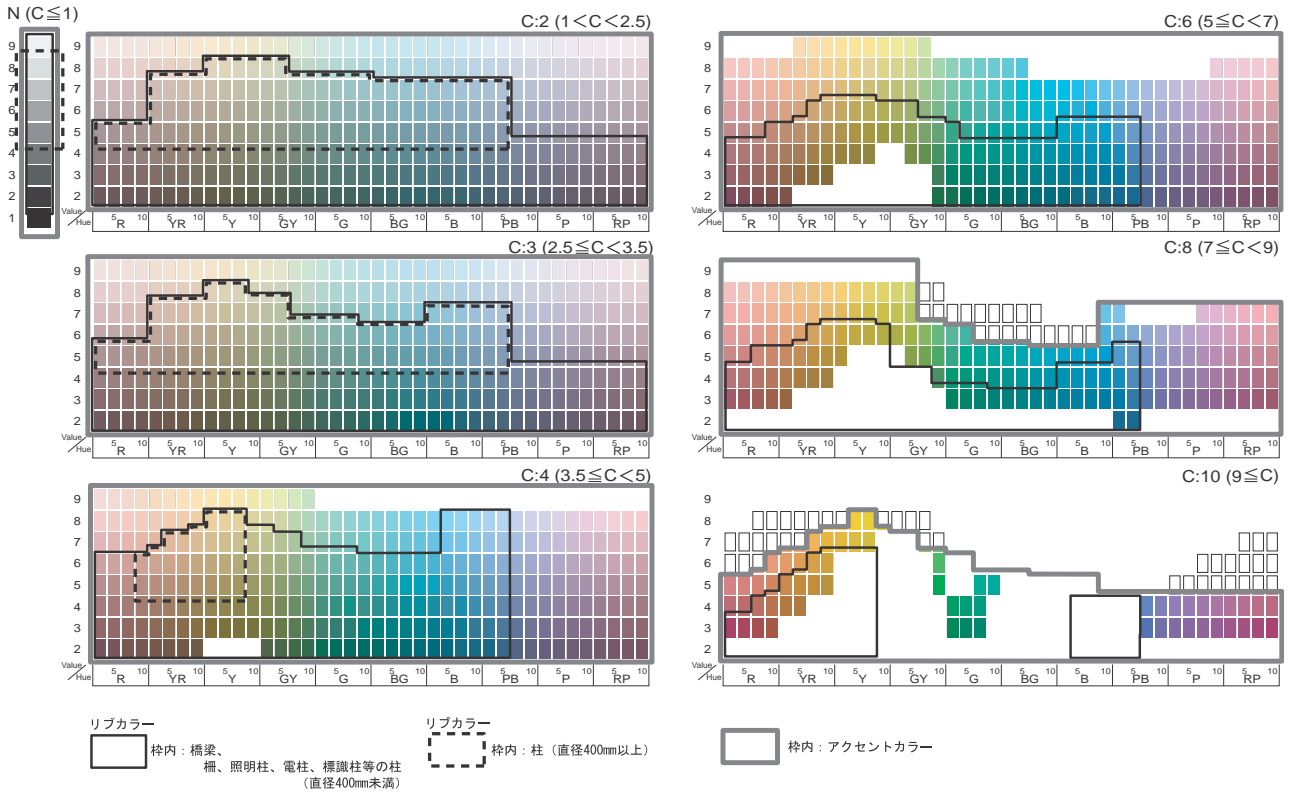
湖畔(内陸湖)〈アクセントカラー〉



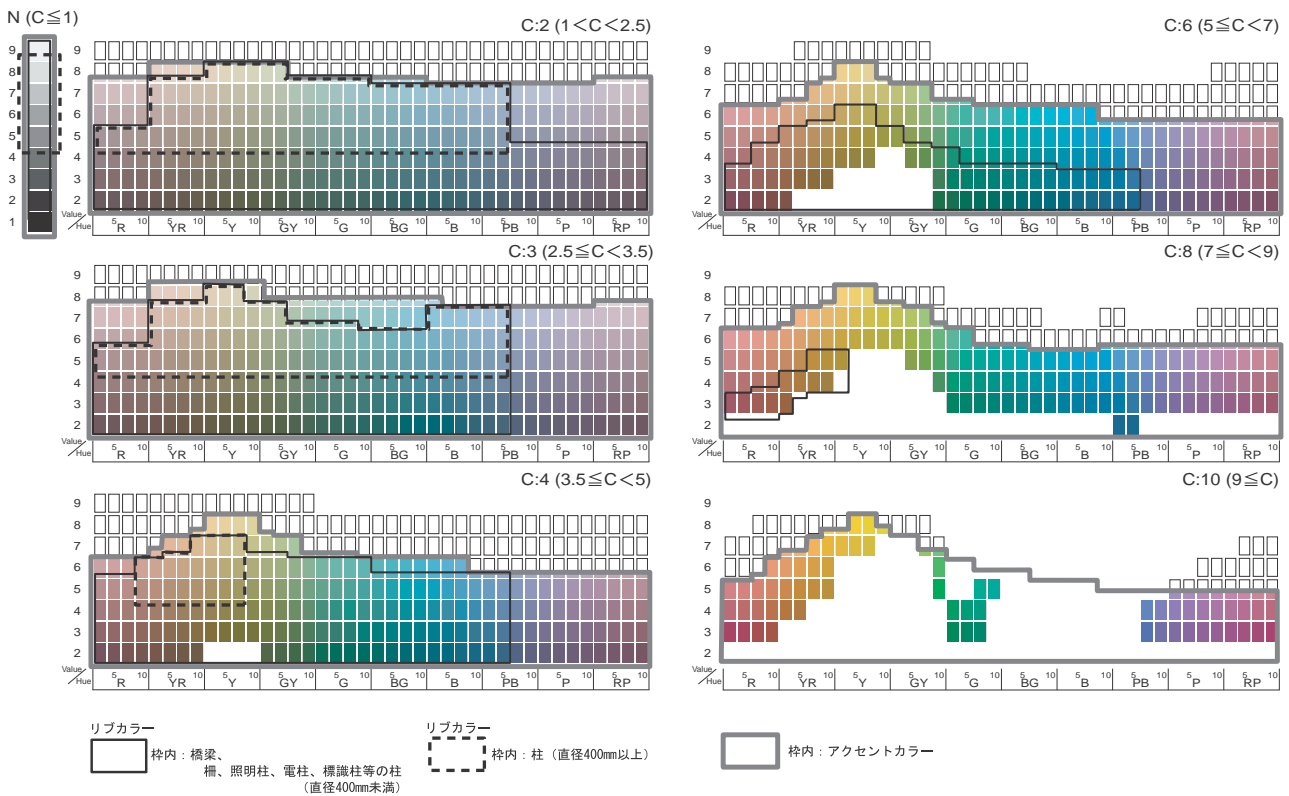
湖畔(海沿い)〈メインカラー／サブカラー〉



湖畔(内陸湖)〈メインカラー／サブカラー〉



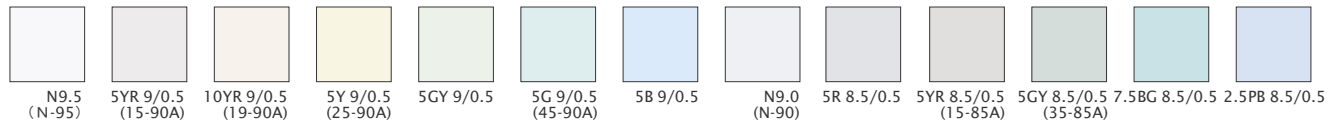
湖畔(海沿い)◀リブカラー/アクセントカラー▶



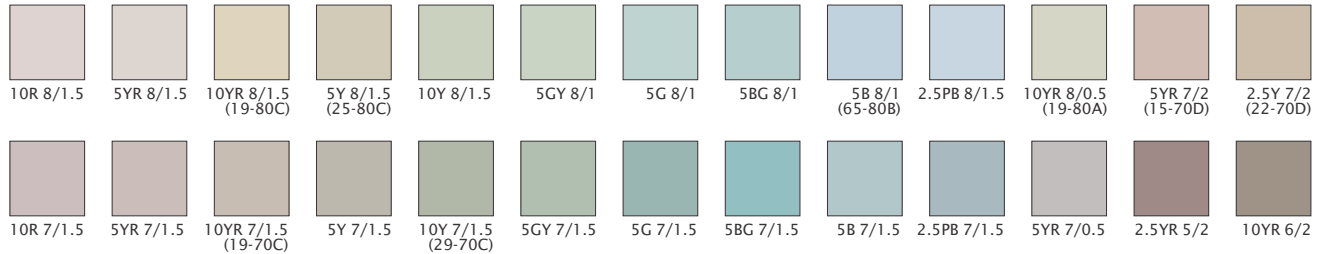
湖畔(内陸湖)◀リブカラー/アクセントカラー▶

## カラーパレット 湖畔（海沿い）

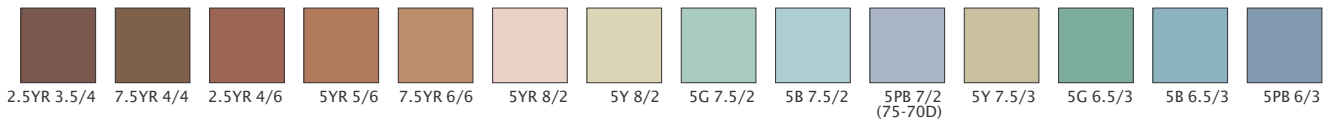
### メインカラー<湖岸最前列>



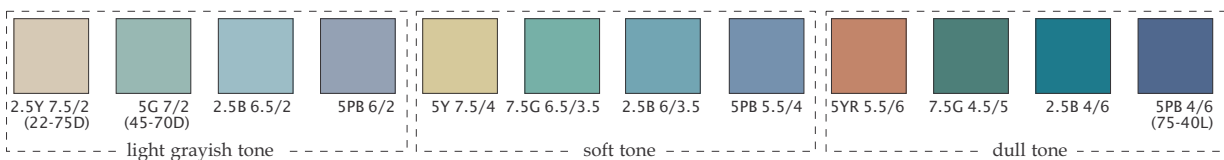
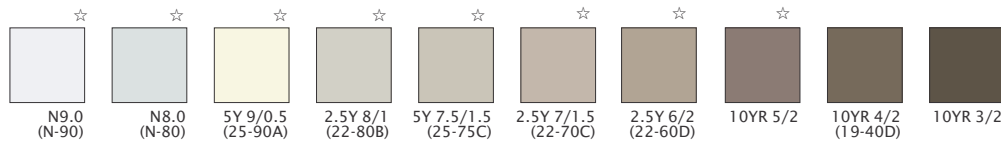
### メインカラー<湖岸最前列以外> (最前列のメインカラーも用いることができます)



### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

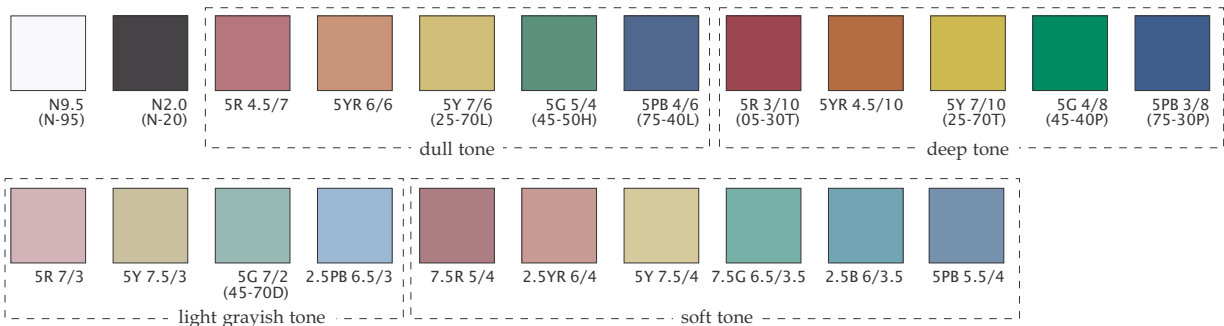


### リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

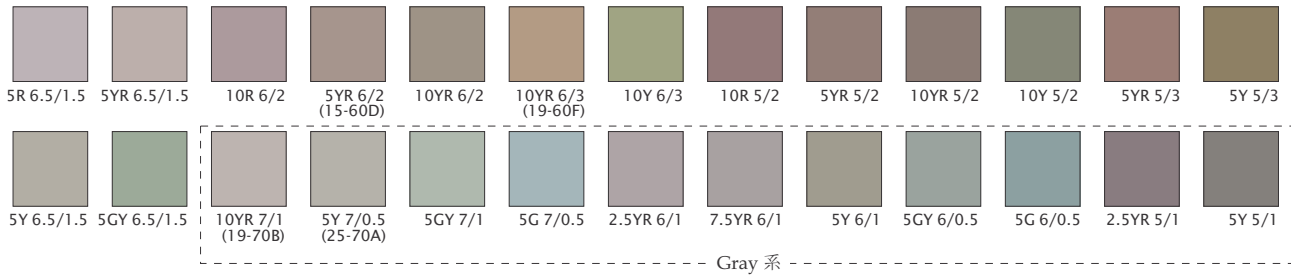
### アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



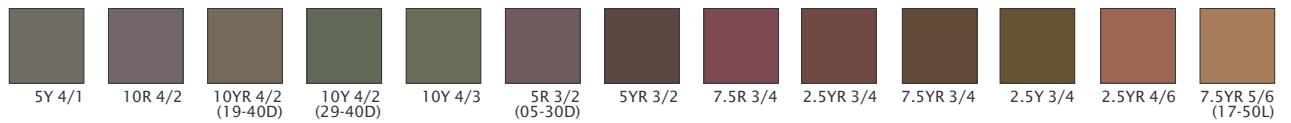
プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

## カラーパレット 湖畔（内陸湖）

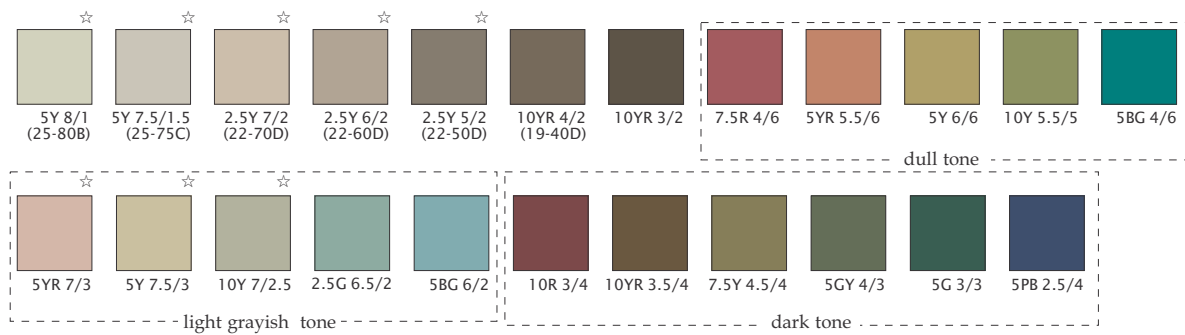
### メインカラー



### サブカラー（メインカラーもサブカラーとして用いることができます）



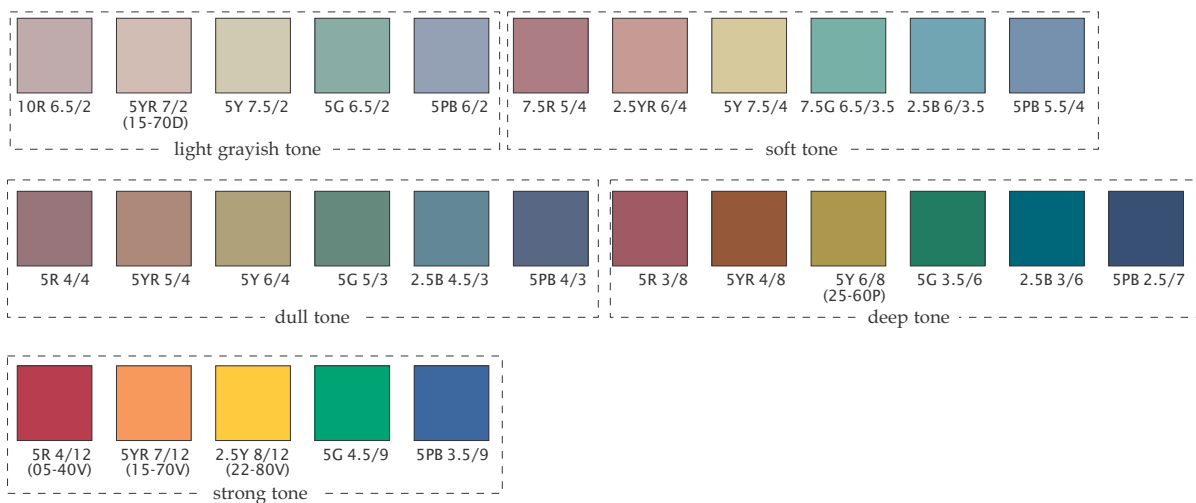
### リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

dull tone は景観のアクセントとして橋梁等に用いる場合に使用します

### アクセントカラー（メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます）

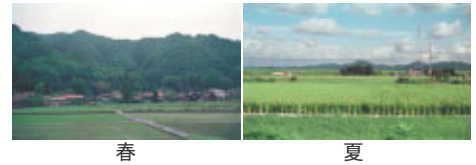


⑦ 平野田園

色彩的特徴

色彩の特徴は、「田園の色彩」に負うところが多く、春は水を張った田に映った空の色と苗の明るい色が混色し、透明感を伴ったイエローグリーンとなって水平に広がります。夏は伸びた稲のイエローグリーン、秋は実った稲のイエローが全面に広がり、明るく開放的な景観となります。稲の刈り取られた田は下草や切り株による淡いイエローグリーンから淡いイエローとなります。この淡いイエローはストロー（藁）という固有色名もあります。

その中で屋敷林（築地松）や背景の丘陵は、田園のイエローグリーンと類似の色みを持ちながら、田園より濃い色調（トーン）であり、共通性の中に適度なメリハリを感じさせる景観色となっています。



春

夏



秋

冬



築地松（春）

色彩選定のポイント

最も景観に影響を与える色彩は、水平に広がる田園です。樹木の葉色より一段と明るく、上空で広がる空と相まって、陸地景観の中では最も開放的な印象の景観です。

このように様々な色調のイエローグリーンが広がる農村景観では、従来から用いられていた白壁や様々な色あいを持つ明るく柔らかい色調の土壁が調和します。築地松のある景観では築地松より暗い色を用いると、稲と松の対比のバランスがこわれてしまいますから、避けましょう。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

白壁や明るく柔らかい色調の土壁がメインカラーの見本です。屋敷林を設けない建造物については明るいメインカラーが望まれます。

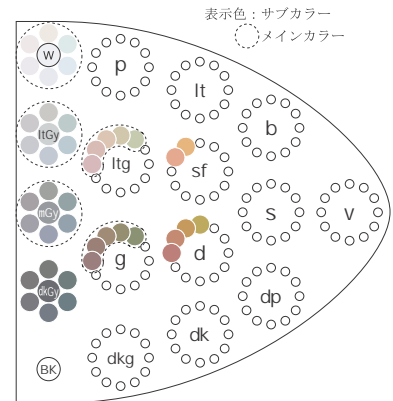
リブカラー

明るい自然の素材色が特徴ですから、高彩度色は避けています。

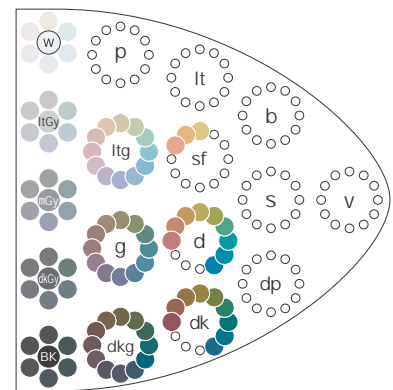
意識的に明るい色を用いても調和のとれる景観です。

アクセントカラー

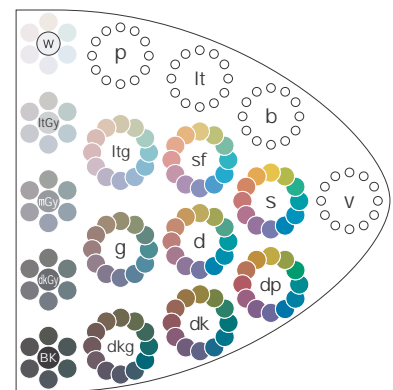
農作物など自然の素材色が主体となって明るい景観を形成している地域ですから、人工的な発色を示すビビッドトーン、ブライトトーン、ライトトーンといった中・高彩度の明るく澄んだ色調の色は避けた方がよいでしょう。



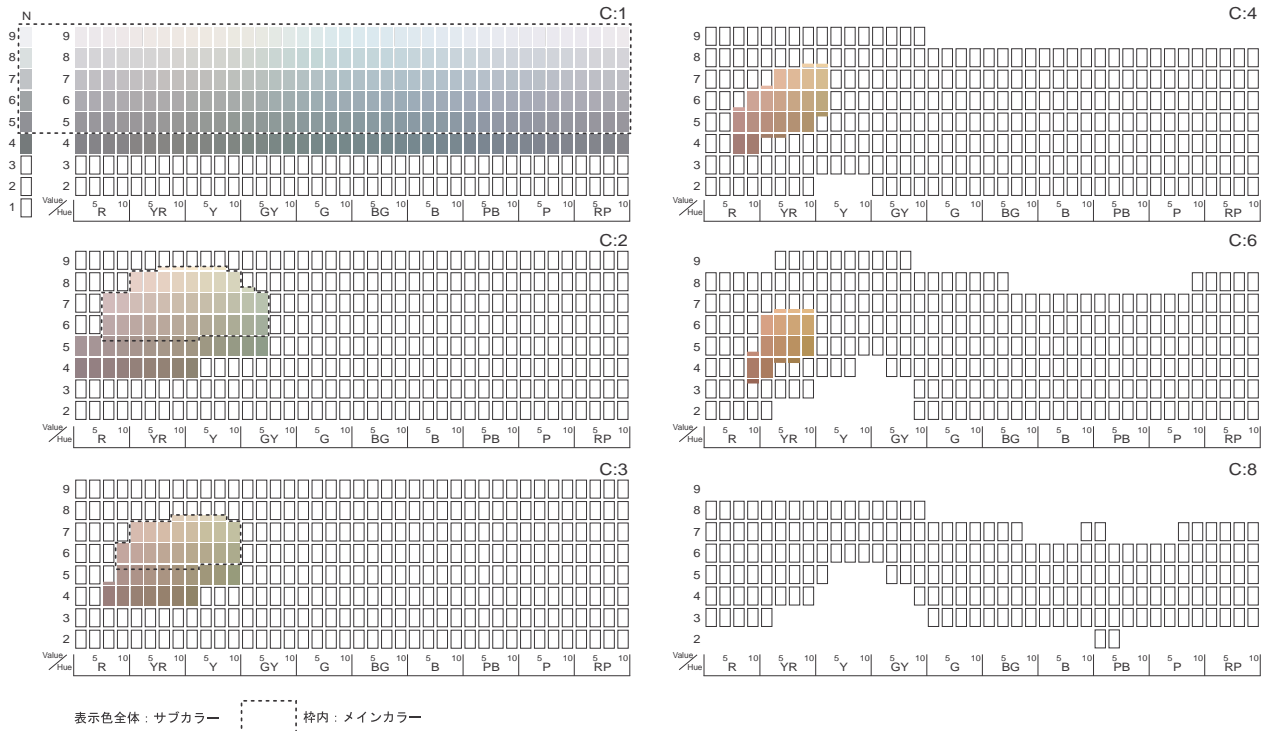
平野田園〈メインカラー／サブカラー〉



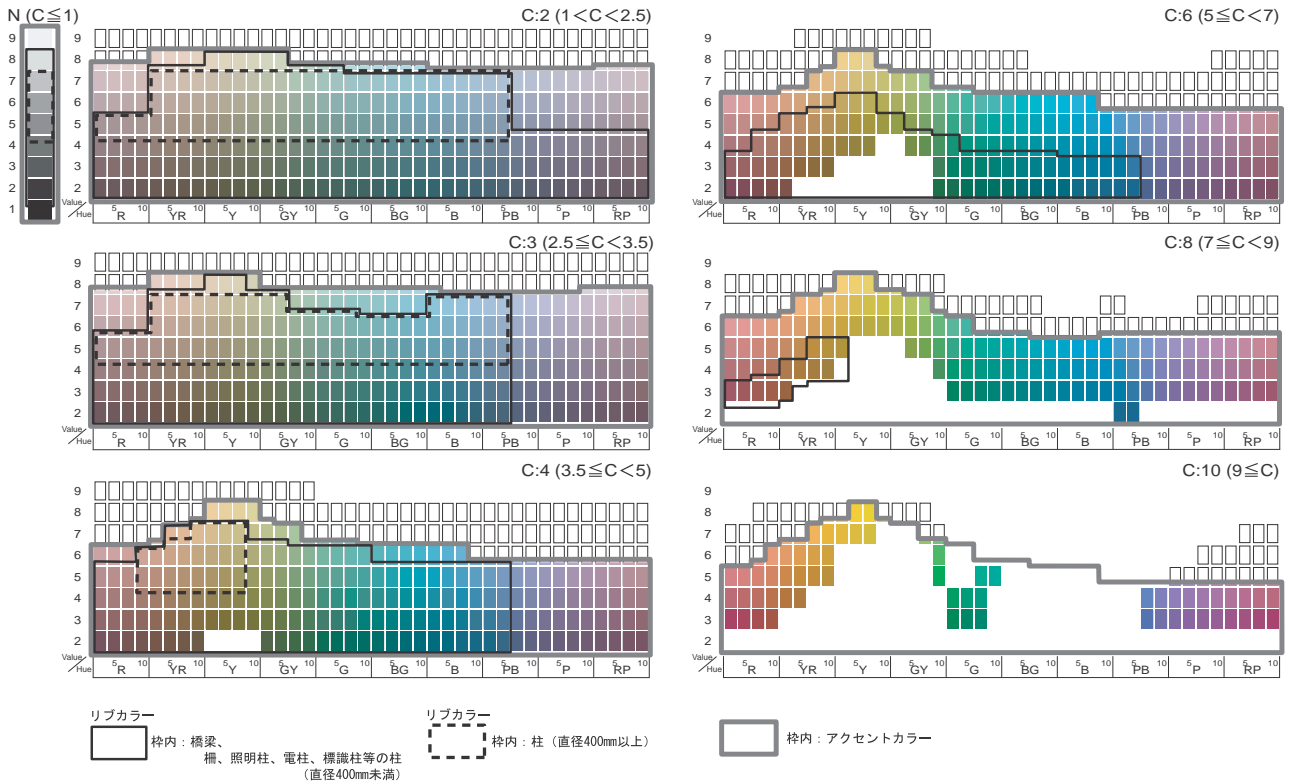
平野田園〈リブカラー〉



平野田園〈アクセントカラー〉



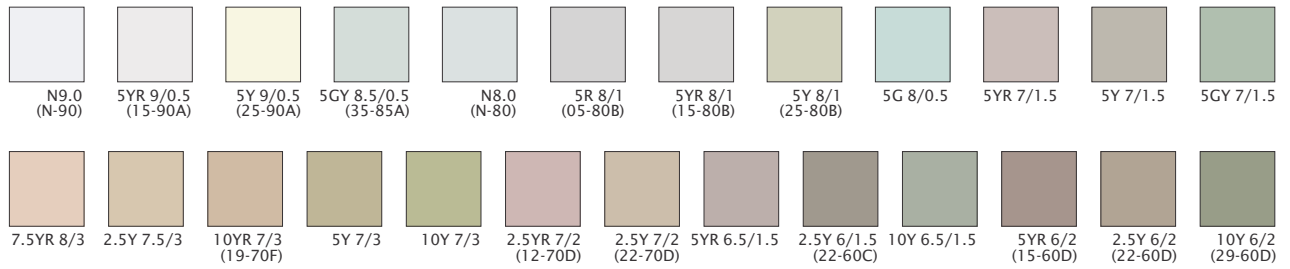
平野田園<メインカラー／サブカラー>



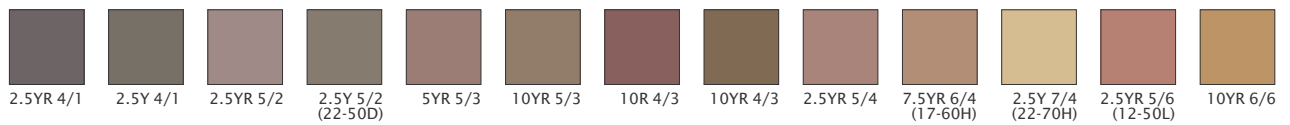
平野田園<アクセントカラー>

## カラーパレット 平野田園

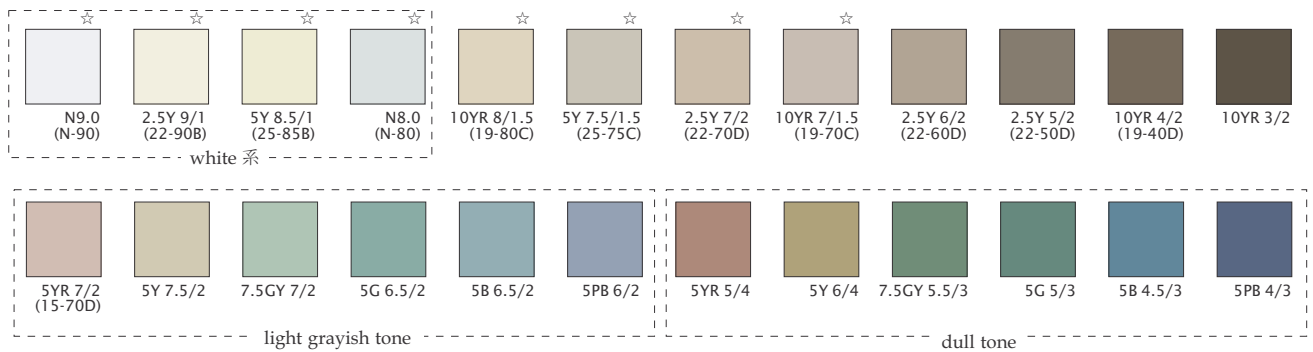
### メインカラー



### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

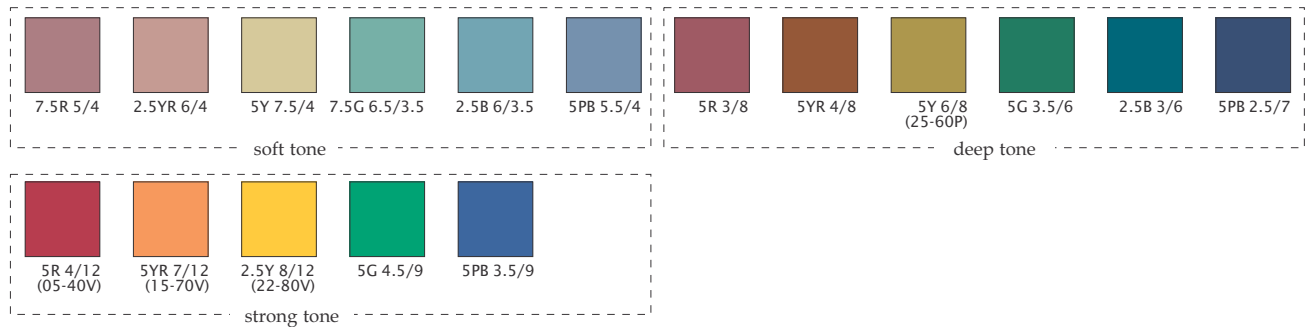


### リブカラー

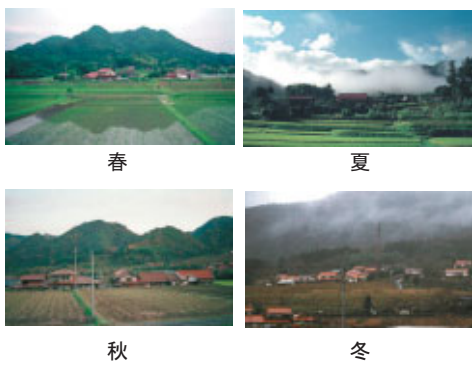


直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

### アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)







春

夏

秋

冬



盆地田園

展望する場所があることが多く、そのため、屋根の色彩により一層の配慮が必要です



田園景観の中にひときわ目立つ鮮やかな青い壁面（現状）



田園景観を主役にする建造物の色彩（カラーシミュレーション）



明るい陸屋根の白が突出した印象の現状景観



陸屋根の明度をやや落とすことで（明度7.0相当）、背景の山並みと融和した景観となる

## ⑧ 丘陵田園・盆地田園・山間田園

色彩的特徴

色彩の特徴として大きく影響してくるのは、「田園」と「山」や「丘陵」の色彩です。田園では稲の成育に沿った色彩の変化と刈り取られた後の田の色彩が、山は四季に応じた樹木の色と樹種の分布が色彩を決定します。田園は地域によって広さが異なりますが、山の色彩に比べて一段と明るいのが特徴です。

山を背にして民家が建つため、山と隣接する屋根の色の影響は無視できません。赤瓦で統一された集落は良好な景観という印象を受けます。特に盆地では地域一帯を望むことのできる展望地があり、そこからの眺望では屋根の色が重要であることがわかります。

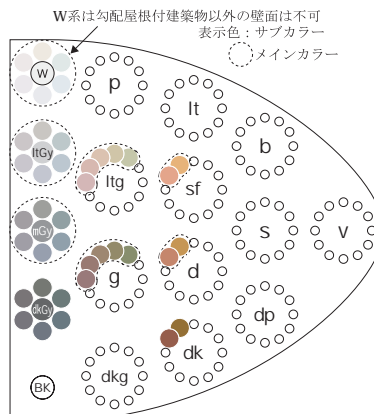
### 色彩選定のポイント

平野田園と比べると、背景が山になり、さらに田園の規模が小さくなりますので、しっとりとした落ち着いた景観となります。人工的建造物にもやや落ち着きを持たせた調和が求められるところです。しかしこの地域は農家の生活圏でもあるので、あまり暗い色を広い面積で用いると、重苦しい印象となりますので、避けた方がよいでしょう。

### メインカラー／サブカラー選定の考え方

明るさと落ち着きを両立させる、程の良さが求められます。和風屋根の建築物は明るい壁面を用いても、背景の山とうまく調和しますが、このように明るい色を用いても落ち着きの感じられる演出法が必要です。

陸屋根の場合は明るい色を用いると、背景の山に対してなじみにくくなりますのでホワイト系は避けた方がよいでしょう。



丘陵田園など〈メインカラー／サブカラー〉

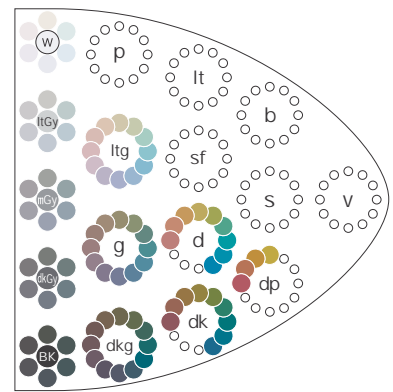
リブカラーの配色法

穏やかな自然景観が広がる地域ですから、人工的な印象の色彩は避けた方がよいでしょう。

アクセントカラーの配色法

農産物などの自然素材の色で構成された景観ですから、人工的な印象が強くなるソフトーンやストロングトーンを用いるときは面積比や形状また施す位置に配慮が必要です。

屋外広告物などで自然景観が背景となる場合は、アクセント色にメインカラーやサブカラーの枠を付けるとなじみ易くなります。



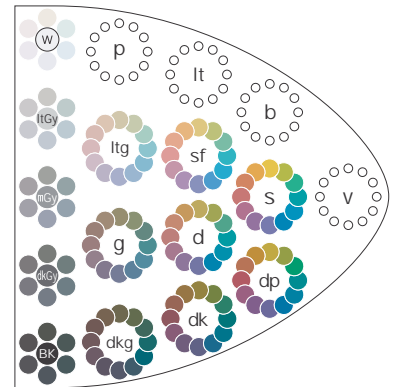
丘陵田園など〈リブカラー〉



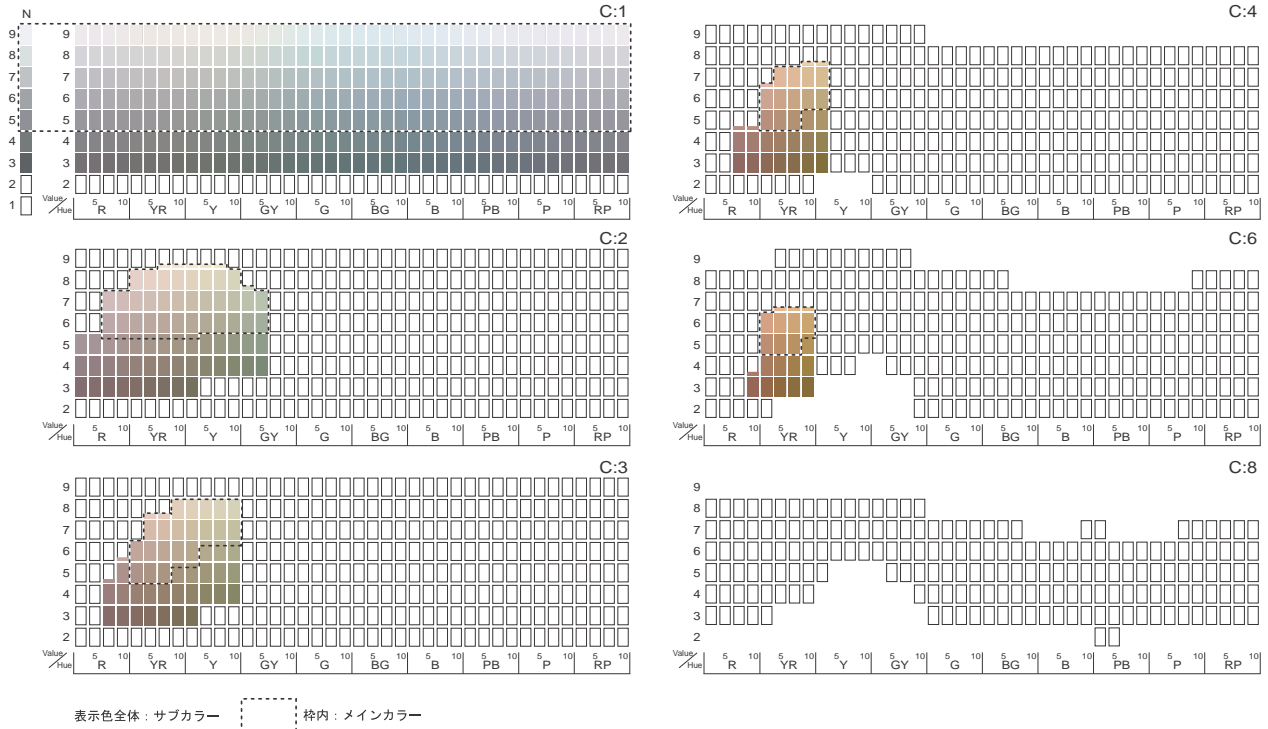
山間田園に浮かぶアクセントカラー  
〈現状〉



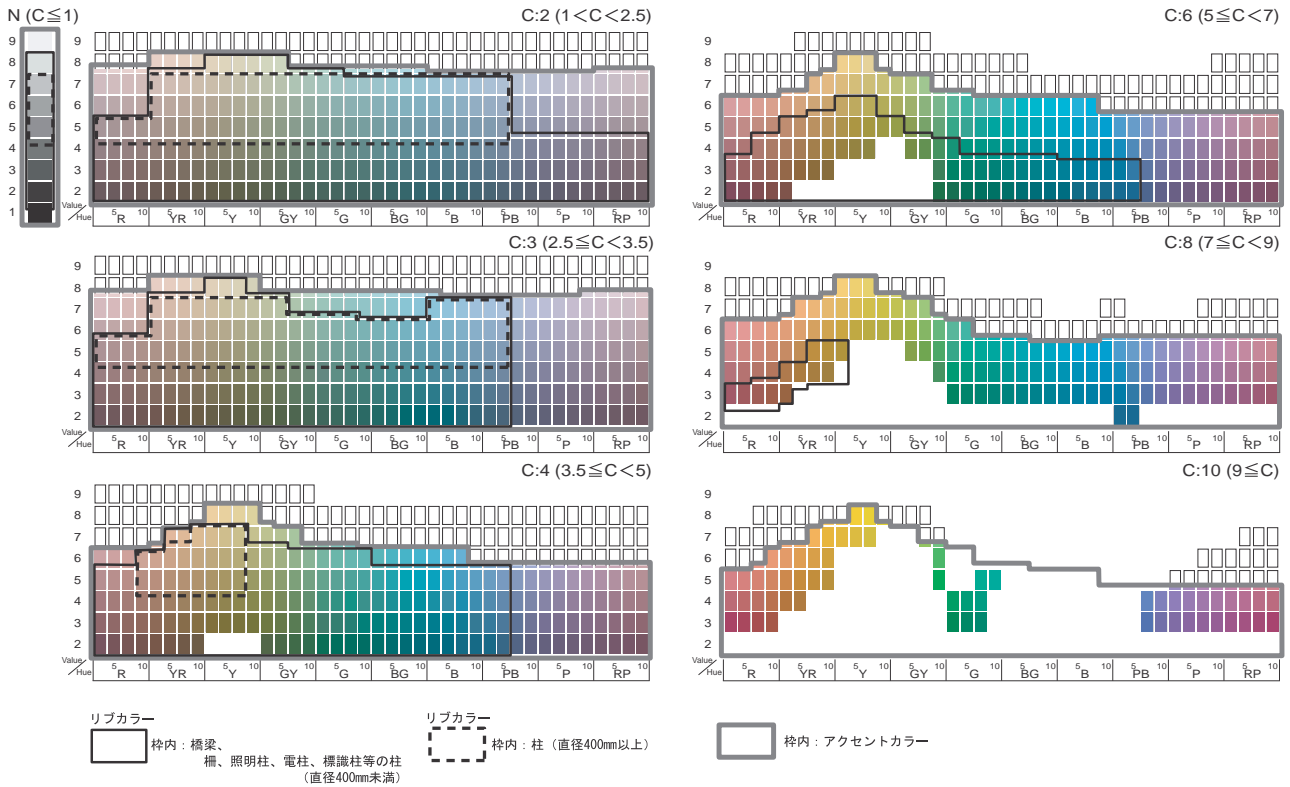
メインカラーの枠をつけて景観への影響を  
押さえたシミュレーション事例



丘陵田園など〈アクセントカラー〉



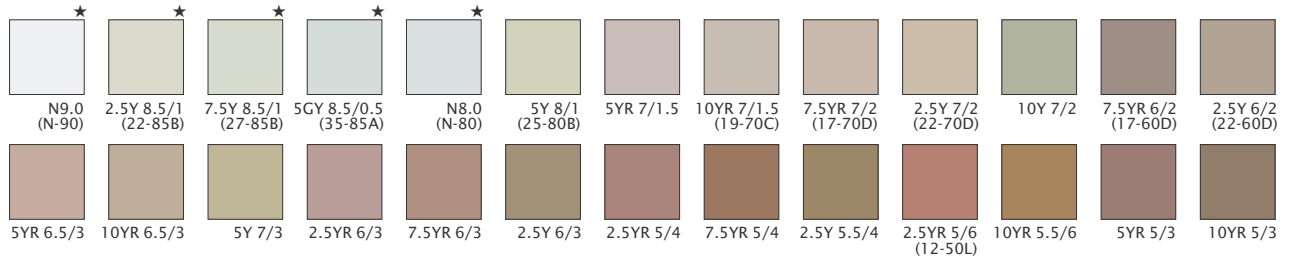
丘陵田園・盆地田園・山間田園〈メインカラー／サブカラー〉



丘陵田園・盆地田園・山間田園〈リップカラー／アクセントカラー〉

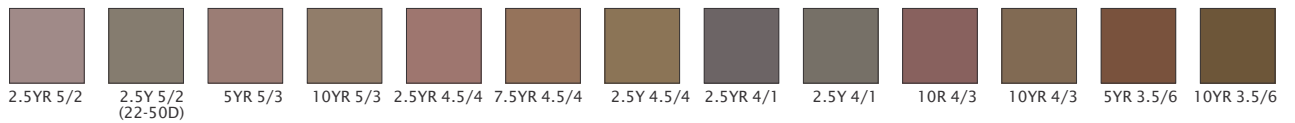
## カラーパレット 丘陵田園・盆地田園・山間田園

### メインカラー

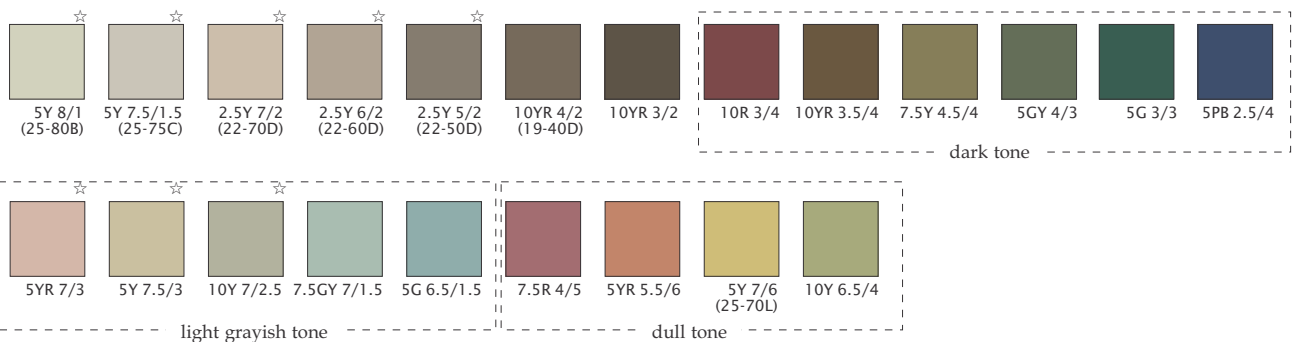


★印：勾配屋根の建築物のみに許容されるメインカラー

### サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



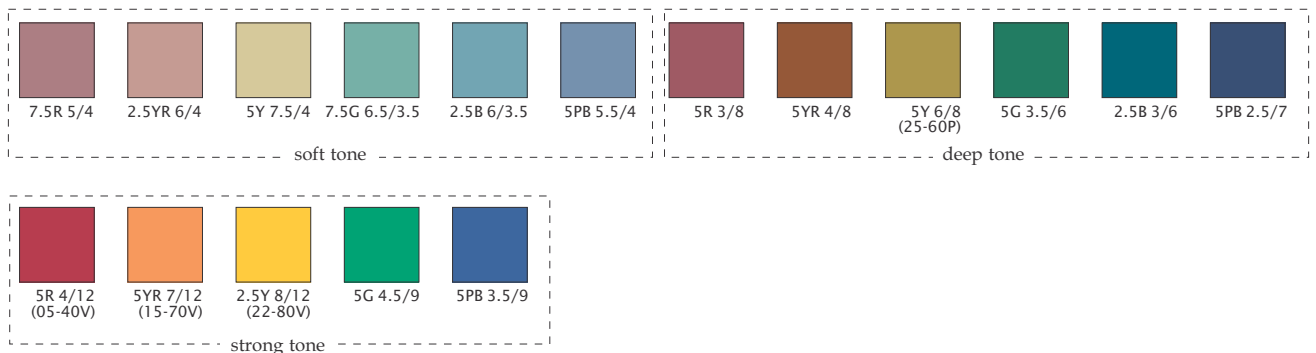
### リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

dull tone は景観のアクセントとして橋梁等に用いる場合に使用します

### アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。